

都道府県名

広島県

## 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	口和町立口北小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員数	
学級数	1	1	1	1	1/2	1/2	5	8	
児童数	7	6	12	8	8	2	43		

## 研究の概要

## 1 研究主題

基礎・基本の定着をめざし、意欲的に学ぶ児童を育成する  
～自ら学び表現する子どもを育てる指導方法の工夫～

## 2 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

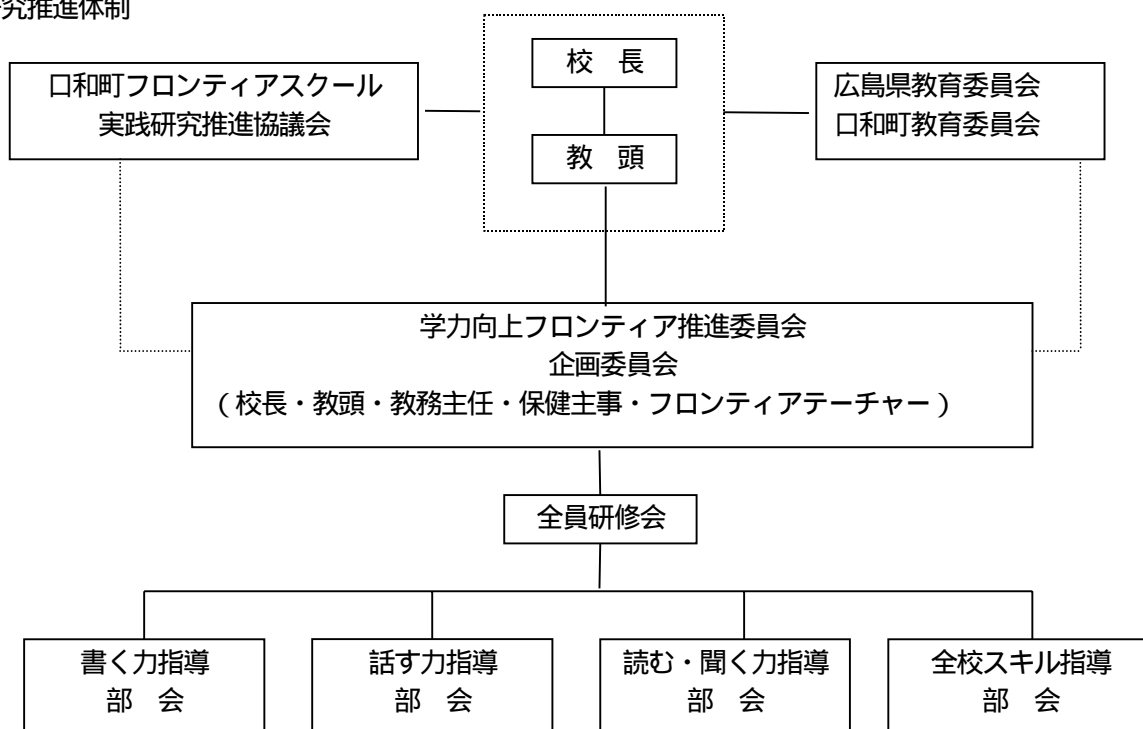
- ・ 1～6年生 国語  
昨年度より、研究を行っており、引き続き全校で「書く・話す」の系統的・継続的な指導の研究に取り組み、自ら表現する児童を育てる。
- ・ 3～6年生 算数  
少人数であるが、児童の意欲・関心や理解に応じた指導をする。

## (2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ 基礎・基本の定着をめざし、意欲的に学ぶ児童を育成する ～自ら学び表現する子どもを育てる指導方法の工夫～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個に応じた指導方法や指導体制を工夫・改善していけば、一人一人の児童の意欲が高まり、「基礎・基本の学力」は定着するであろう。</li> <li>・ 「話す」「聞く」ことの系統的・継続的な取り組みを工夫し、表現の場を関連づけて設定することで、表現力がつき、意欲的に表現するであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員が、四つの指導部会（書く力指導、話す聞く力指導、読む力指導、全校スキル指導）に分かれ、提案及び実践を進めていく。</li> <li>・ 一人一人の実態把握と評価を生かした指導の工夫をする。 個に応じた指導のための教材の開発をする。 個に応じた指導のための指導体制・指導方法の工夫をする。</li> </ul>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 基礎・基本の定着をめざし、意欲的に学ぶ児童を育成する ～自ら学び表現する子どもを育てる指導方法の工夫～</p> <p>研究の見通し ・筋道を立てて自分の考えや思いが表現できる児童を育成する。 ・相手を明確に意識して、自分の考えや思いを分かりやすく表現しようとする児童を育成する。</p> <p>研究の内容・方法 ・習熟度や個に応じた多様な教材の開発に努め一人一人の学力を向上させる。 ・これまでの研究をもとに、指導と評価方法の多様化を図り、実践及び成果の積み上げをしていく。 ・少人数学級の実態にあった学習スタイルを工夫し表現しやすい学びの場をつくる。 ・「話す」「聞く」ことの系統的・継続的な取り組みを計画的にする。</p>
--------------------	--

(3) 研究推進体制



### Ⅲ 平成15年度の研究成果及び今後の課題

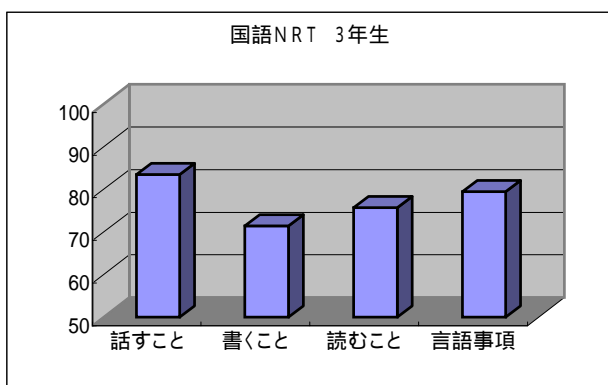
#### 1 研究の成果

指導方法の工夫や習熟の程度に応じたワークシート・ノート等の工夫により、児童の学習への意欲が高まり、書く力が向上してきている。

##### (1) 研究前の児童の状況及び課題

本校の児童は、素直で、課題に対して真面目に取り組もうとする。入学以来、少人数で生活しており、表現の場の多様性を考えなければならない。自分の考えが見つかる、意欲的に書いたり、発言したりすることができる。しかし、相手を意識して、分かりやすく話そうとすること、筋道を立てて文章に書こうとすることは十分とは言えない。

<H15, 2月3年NRTの結果より >

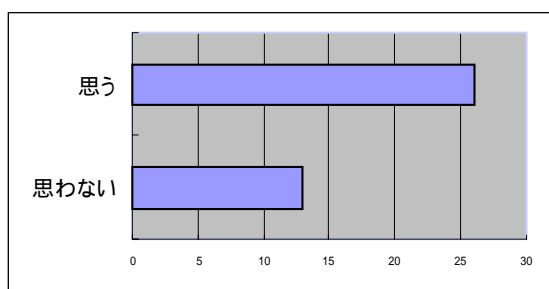


##### <書くこと>に関わって

通過率の低い設問の内容	通過率
順序を考えて書く	50%
文章の組み立てや事例の順序を考えて書く	17%

[資料①]

##### <児童アンケート結果>



(質問) 授業中に自分の考えをみんなに説明したり、発表したりすることは得意ですか。

##### 「あまり思わない・思わない」と答えた児童の理由

- ・みんなと違っていたら不安・恥ずかしい、緊張する。
- ・考えが思いつかない。
- ・自分の考えをどう説明したらいいのかわからない。
- ・話している途中で分からなくなる。

[資料②]

##### (2) 研究の具体

###### ①取り組みのねらい

次の二点に絞って、研究に取り組んでいる。

⑦筋道を立てて、自分の思いや考えが表現できる。(書く) [資料①より]

⑧相手を意識して、分かりやすく、自分の思いや考えを表現することができる。(話す) [資料②より]

###### ②指導方法の工夫

###### ⑦コース別学習の開発

きめ細かい指導・支援や習熟度別学習・少人数に分かれた学習を取り入れることで、一人一人の意欲を伸ばし、習熟の程度や課題にあわせた学習ができると考え、活動の異なるコースを設定した。学習後の児童実態から、次の学習活動を工夫していく。

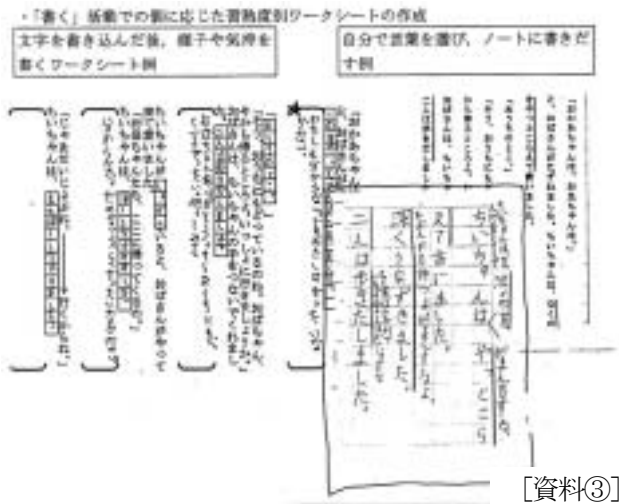
2年	「スイミー」 ↓分析 「サンゴの海の生きものたち」	音読の練習（習熟度別） 文節が分かりにくい児童→まとまりを意識 正確に読めない児童→一文ずつ読むコースの設定 短文作り（興味関心別） テーマごとに書き、接続詞の使い方の徹底を図る ↓ 筆速に応じて書き出す文字数・吹き出しの場面の量を変えたワークシートを使用
3年	「ありの行列」 ↓分析 「動物とくらす」	マグネットコース→難易度が低い 紙しばいコース→難易度が少し高い ↓ 吹き出しコース→質問形式の会話で内容を理解（難易度が低い） 見出しコース→まとめて短く書き内容を理解（難易度が高い）

①習熟の程度に応じたワークシート・ノート等の工夫

1 単位時間での評価規準の設定と支援として筆速や読み取る力に応じたノートやワークシート [資料③]・④] を工夫した学習指導の一例

【3年「ちいちゃんのかげおくり」の指導の一例】

学習活動	評価規準	支援
7 はぐれてしまったちいちゃんの気持ちを考える。 ・ワークシートコース（T1） ちいちゃんの様子や気持ちが分かるところをワークシートに書き出し、ちいちゃんの気持ちを書き込む。 ・ノートコース（T2） ちいちゃんの様子や気持ちが分かるところをノートに書き出し、ちいちゃんの気持ちを書き込む。	叙述に沿ってちいちゃんの様子を読み取りちいちゃんの心細さや不安を想像している。  (十分満足できる) 叙述に沿ってちいちゃんの様子や気持ちをを読み取り、場面と結びつけてちいちゃんの心細さや不安を想像している。	・「ちいちゃんは～な気持ちだと思います。わけは～だからです。」の型にあてはめさせる。  ・ひとりぼっちになった場面を結びつけて気持ちを想像させる。



[資料③]



[資料④]

【2年「サンゴの海の生きものたち」の指導の一例】

学習活動	規準	支援・方法
	十分満足できる (A) おおむね満足できる (B)	
3, かかわり合いを読み取る。⑤⑥ (2種類のワークシート選択) ・ワークシートで穴埋め視写し、食べる魚・イソギンチャク・クマノミのせりふを考える。	(A) イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、説明することができる。 (B) イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取ることができる。	(B→A) まとめたことをもとに絵を使って説明する。 (C→B) 読み取るためのワークシートを工夫する。 ワークシート 発表

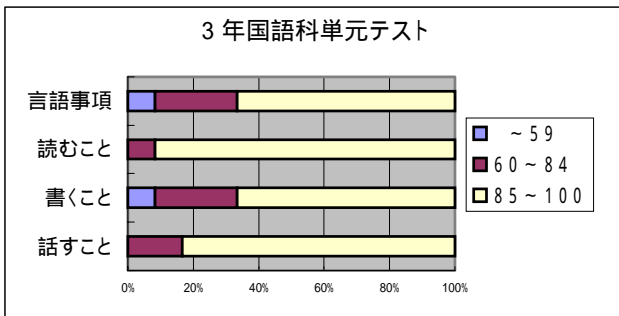
⑦言語活動の工夫（教科内容の系統性との関連を考える。）

- ・帯タイム(全校スキル指導)
- ・口北ノートの取り組み(家庭学習)
- ・言語環境づくり
- ・表現活動の場の工夫

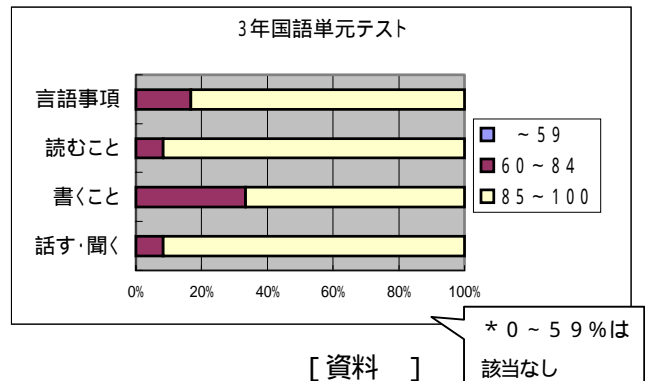
(3) 成果

**成果1 国語科において、単元を通して理解度に伸びが見られる**

<1学期の単元テストの通過率>



<2学期の単元テストの通過率>

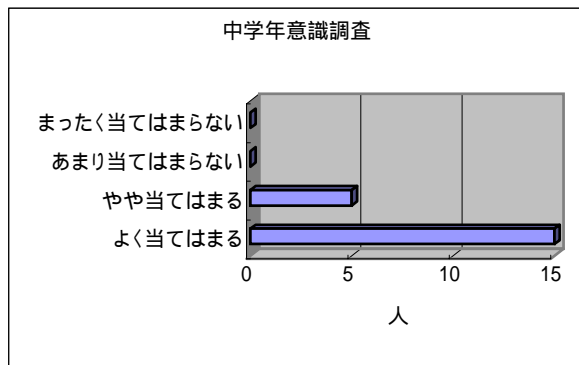


[資料]

[資料]

単元終了後に行う単元テストでは、「書くこと」と「言語事項」の習熟に課題がある。1学期の単元テスト[資料]と比較し、2学期の単元テスト[資料]では通過率の低かった児童が伸びてきている。口北ノートや帯タイム等の成果が見られる。

**成果2 指導形態の工夫により、学習に対する意欲が高まった**



<児童アンケート結果より>

「コース別学習をすると勉強がよく分かりますか。」という質問に対する回答結果[資料]からほとんどの児童がコースを選択して学習を進めることを肯定的にとらえていることが分かる。しかし、低学年では、数名「みんなとやった方がいい」という意見もあり、学年によって意欲に差が見られることも分かった。

[資料]

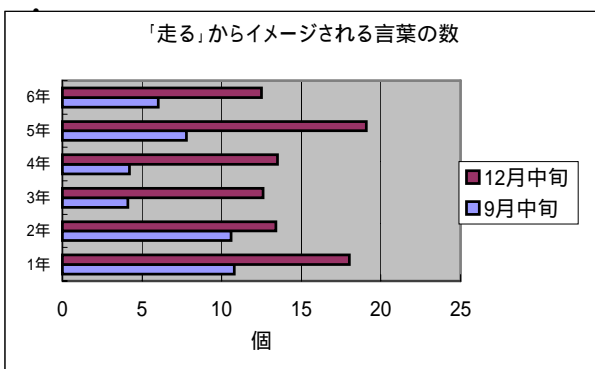
**成果3 帯タイムでのイメージマップの継続的な取り組みにより、量的・質的な言語の広がりが見られる**

**全校スキル指導(帯タイム)**

学習内容定着のための時間の確保・・・帯タイムを朝の時間に設定し全校スキル指導を行った。

曜日	月	火	水	木	金
内容	テーマを決めた意見文	イメージを広げる言葉集め	音楽朝会	構成メモを使った短作文	児童朝会

「走る」からイメージされる言葉の数を9月と12月で比べてみると、継続的な指導によりイメージする語量は多くなった。全体的に「言語事項」を意識して取り組んだ成果が表われている。[資料より]



イメージマップ例(3年生)



5 [資料]

授業や帯タイム，口北ノート等で視点を決めて書かせることを継続した結果，日記や生活作文のなかでも語彙の広がりが見られるようになった。また，個々の課題も明確になったので，今後の指導に生かしていきたい。  
 [資料 より]

< 1年生活作文で見られた表現語彙の増加 >

～家庭学習で書かせた1年生の日記「もち米あらい」「もちつき大会」「おもちを食べたよ」から抜粋して分析～

児童	文の長さ 評価規準 200字	擬態語 擬声語	比喻表現	順序	学習文型		その他
					～たり，～たり	～そうな	
A児	A	べったんべったん くるくる どんどん		つぎに こんどは		こぼれそう	「 」
B児	B	ねばねば べったんべったん	ボールのように にぎるように	はじめに つぎに そして そのあと さ いしよに	～したり，～ つけたり	おいしそう こぼれそう	すこしはまるぐら い
C児	C	ぴっかぴっか ことごと				うれしそう たれそう	

[資料 ]

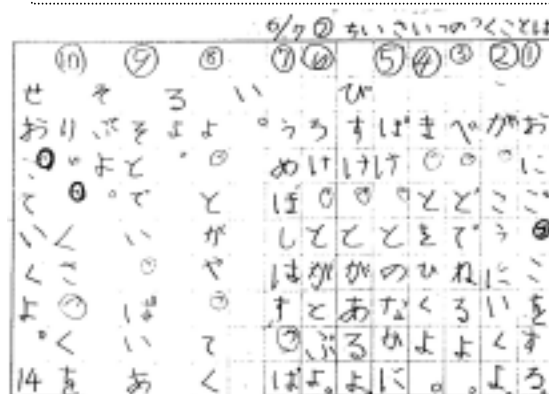
- \* B児・・・学習した文型が使われており，語彙に広がりが見えている。
- \* C児・・・語彙に広がりが見れるが，比喻表現や順序を表す言葉などに課題が見えている。

口北ノート（家庭学習）の取り組み

（1年生年間計画表）

学期	月	重点課題
1 学期	4	濁点の字をある字を使って書く。
	5	のばす音，拗音， 「ん」の音，小さい「っ」のある音を使って書く。 濁点のある字を使って書く。
	6	のばす音，拗音，「ん」の音，小さい「っ」のある音を使って書く。 「は」「へ」「を」を正しく使って書く。
	7	「は」「へ」「を」を正しく使って書く。 習った字を使って書く。（個数を決めて）

『小さい「っ」のつく言葉』を課題としたノート例  
 (1年生)



[資料 ]

成果4 個を分析し、評価することで次の指導が明確になる

< 3年生説明文単元の学習での児童の変容と指導の改善 >

「ありの行列」の学習で苦手意識を示す児童（児・児）も，2つのコースを設定した「動物とくらす」の学習の中で，意欲的に取り組み，児はキーワードを入れてまとめる力が伸びた。ワークシートが要点をまとめることに効果的であった。児は，意欲は高まったが理解できなかったこと（児童の評価と指導者側の評価のずれ）を分析し，今後は，児に対する支援やワークシート等の工夫を考えていく必要がある。

[資料 より]

児童の学習後の自己評価	質問	「見出しコース」で短く書きまとめることができましたか。	自分の力でうまくまとめられる。 3人	なんとか自分でまとめられる。 5人 児	少し先生のアドバイスが必要である。 4人 児	難しくて、なかなかできなかった。 0人
	項目	「吹き出しコース」で適切な会話を書くことができましたか。	自分の力で応答に合わせて書ける。 2人 児	なんとか自分で書ける。 4人 児	少し先生のアドバイスが必要である。 4人	難しくて、なかなかできなかった。 1人
	評価	まとめの言葉を見つけれられているか。	はじめから、自分で見つけられている。 0人	学習するうちに自分で分かった。 6人 児	意見を聞いたりしながらなんとなく分かってきた。 5人 児	難しくて分からない。 0人
指導者評価	キーワード「体・心」を入れて二つの要点が書けている。	二つともまとめが書けている。 5人	二つ目のまとめ方が不完全である。 5人 児	二つともまとめ方が不完全である。 0人	どちらかが書けていない。 1人 児	

[資料 ]

<効果の上がない事例の分析で支援方法を改善>

4年生1学期の説明文学習の状況 (児)

- ・自分で重要語句を見つけることができない。
- ・助言が有効でない。

「体を守る仕組み」の学習では、ヒントカード(言葉を書き入れる)を支援し、要点をまとめることができた。単元の評価規準【書こうとすることに必要な部分を資料から引用し、調べたことをまとめて書く】に照らし合わせて評価すると 児は、概ね満足できる状況に高まった。[資料 より]

単元の評価			
児童	読み取り	体について調べたこと	まとめたこと(一例)
1	A	骨・髪の毛・つめ・歯・指紋	しもんは、すべり止め・はん人さがしにやくだつ。種類は、うずまき形・ながれ形・ゆみ形がある。
2	B	目・鼻・つめ・骨・脳	鼻のあなのまくは、ごみやほこりをすいつける。
3	A	血・骨・血小板・つめ・胃	きず口を小さくし、同時に血小板が集まり、血を止め治します。

[資料 ]

## 2 今後の課題

### (1) 指導方法の改善

少人数の学習集団である本校の実態にあった多様な指導方法の研究を進める。  
コース別の学習にこだわらず、二人の指導者が観点を分担して指導・評価する指導方法も研究する。

### (2) 評価方法の改善

めざす児童の姿を多様に持ち、一人一人に適切な助言や教材で支援し、意欲・学力を高めていく。また評価規準を明確にして、指導者だけでなく児童にも評価の視点を知らせ、自己評価をさせていく。一人一人の伸びや良さを追跡できる個人内評価を研究する。  
「書く・話す」を中心にしためざす姿を系統的に整理し、評価規準を明確にしていく必要がある。

### (3) 個に応じた教材の開発

評価規準から分析した児童の実態を、個に応じて伸ばしていくために、多様なワークシートやヒントカー

ドを工夫し、指導に生かしていく。

## 学力等把握のための学校としての取り組み

- 1 定期的な学力調査（NRT）を年1回、2月に実施し、今後の指導に生かす。
- 2 口和町フロンティアスクール実践研究推進協議会教科部会で作成した漢字テストや算数テストを実施、課題を分析し、再度テストを行い、考察や各校の取り組みを指導の改善に生かす。
- 3 複数体制での指導により児童の実態を把握する。
- 4 単元テストを集計・分析し実態を把握する。
- 5 これまでの生活や学習習慣についての調査結果を生かし、改善に向けて保護者と連携する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 研究公開により普及
  - (1) 口和町小中学校教育研究会開催  
期 日 平成15年 12月9日(火)  
対 象 小中学校, 口和町民, 保護者  
テーマ「基礎・基本の定着をめざし、意欲的に学ぶ児童を育成」  
\*授業公開 (口北小学校)
  - (2) 口和町小中学校教育研究会開催予定  
期 日 平成16年 10月5日(火)
- 2 平成15年度学力向上フロンティア事業中間発表会  
期 日 平成16年1月27日(火)  
対 象 備北教育事務所管内小中学校, 市町村教育委員会職員
- 3 口和町教育委員等会議での報告  
期 日 平成16年 2月23日(月)  
対 象 口和町教育委員, 学校評議員等
- 4 ホームページによる公開と普及
- 5 学校だより「フロンティアのページ」の充実

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級		
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	算数 図画工作	理科 家庭



【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      有      無